

わが図書館のここに注目！！

～鹿児島県立図書館～

貸出文庫の始まり

昭和23年当時、館長であった椋鳩十先生の、「県民全般がくまなく文化の恩恵を得られるよう運営しなくてはならない」との思いから、鹿児島県立図書館では貸出文庫を開始しました。

そこで、今回は貸出文庫の歴史を、少しだけ紐解いてみましょう。

第2次世界大戦前からアメリカの図書館活動として取り上げられてきた移動図書館の活用は、日本では実現には至っていませんでした。しかし、戦後、その効用が広く知られるようになると、1948年（昭和23年）7月に高知県立図書館が「自動車文庫」を開始しました。



配本車への積み込み作業
(鹿児島県立図書館報第六号)

鹿児島県立図書館でも、同年12月に自動車による配本を開始しました。椋氏は「鹿児島のように、山坂を越え、海を渡り、まことに広大な範囲に市町村がばらまかれている県に於いては、『出来るだけ大きなかたまりの本が』、『一定の場所に』、『一定期間ある』ということに重点を置き、地方への配本方式を続けます。ここには、離島やへき地も含めた、「より多くの個人」への奉仕を大切にしたいといった椋先生の思いがありました。

やがて、「県内各地に県営の文化財を県民に奉仕する」という方式は「鹿児島方式」として全国に広がり、のちの「図書館ネットワーク」の原型となりました。

昭和23年にスタートした貸出文庫の取組は、令和時代になっても途絶えることなく、椋鳩十先生の思いを引き継いでいます。

令和7年度 貸出文庫利用状況

	一般教養図書	児童教養図書	計
13市町村	6,252冊	16,052冊	22,304冊